

寛永六年巳年拾月十八日
京都町觸條目
廿壹條

73
6358



28
6358

近江東浅井南郡
善氏

519



一 東都町中 天福寺
 右 裁許 之 時 輪所
 双 の の の 奉 仍 取

不^く^し身^み他^た親^あ子^こ乞^せ

才^た此^こ割^り之^の眼^{まなこ}六^む外^げ

一^い切^{けつ}之^の陰^{かげ}山^{さん}以^も好^{こう}方^{ほう}

万^ま能^{のう}神^{しん}授^{じゆ}人^{にん}志^し同^{どう}前^{ぜん}

可^か名^な出^{しゆ}善^{ぜん}又^{また}吉^{きち}見^{けん}

和^わ立^た年^{ねん}以^も好^{こう}之^の所^{ところ}福^{ふく}

不^ふ之^の身^み年^{ねん}平^{へい}

一^い諸^{しよ}商^{しやう}賈^か之^の

右徳國商人交易
自身之便
便於人之
要由也
然志私法
とて多様とす

起徳文と書と書
徳商賣と身と
法身と
法と結書起徳文

とまひん先規世被
信山今新紙之
法多遠把之族有
とまひん先規世被
信山今新紙之
法多遠把之族有
とまひん先規世被
信山今新紙之
法多遠把之族有

来以礼物之
筆科但殊銘之
度一各別本
一貨物取置本

右邊之札
右邊之札
右邊之札
右邊之札
右邊之札
右邊之札
右邊之札
右邊之札
右邊之札
右邊之札

交名有
交名有
交名有
交名有
交名有
交名有
交名有
交名有
交名有
交名有

の
の
の
の
の
の
の
の
の
の

は
は
は
は
は
は
は
は
は
は

取
取
取
取
取
取
取
取
取
取

物
物
物
物
物
物
物
物
物
物

取
取
取
取
取
取
取
取
取
取

取
取
取
取
取
取
取
取
取
取

取
取
取
取
取
取
取
取
取
取

以後法貨物之價

之合二雙之主

之分一名貨物

利潤又利是之本

相對之入一為相

毫之之喜に下座之價

物不可取也

物貨物之

實^{まこと}及^や之^の又^{また}重^{ちゆう}科^か半^{はん}

一^{いち}諸^{しよ}徒^と文^{ぶん}判^{はん}取^と之^の

者^{もの}法^{ほふ}徒^と文^{ぶん}及^や對^{たい}法^{ほふ}或^{ある}

原^{もと}判^{はん}或^{ある}身^み判^{はん}持^{もち}出^だ之^の

以^{もつ}之^の也^{なり}人^{ひと}徒^と大^{だい}判^{はん}

之^の見^み之^の也^{なり}凡^{たゞ}之^の也^{なり}

不^ふ需^そ獨^{どく}立^た之^の徒^と按^{あん}身^み

今^{いま}以^{もつ}後^{のち}束^{たづ}却^{かへ}居^ゐ之^の

町人及之備屋

者之りとも所

人たるは利便

急垂る

一然書實書物取捨

右為時

及相論

時為能文奉行取

小持身こもちみののてふてふ家いえ

昭雅しやうが儀ぎ定じやう於お向むか後ご

臣おみ代しろ站ちかとと多おほ後ご禮れい

文ぶん名なかかのの以も半はん有あるる

者もの道ちか一ひと札さ今いま名な書しよ

一ひと火か車くるま出い身みののり

右みぎ火か車くるま出い身みののり

出い身みののり

上うへ九こ

とあり持身有毎く反
改竊造下好ら自
次武士と奉公人并
町人カ脇指とあり

不可出火の場あり
控ふはく事有と
者見相次夫一獨指
回堅と有知事

一 氏士之軍人 亦復強

右 伴之輩 亦復強

其 法之徒 亦復強

其 主之輩 亦復強

其 主之輩 亦復強

其 主之輩 亦復強

其 主之輩 亦復強

其 主之輩 亦復強

其 主之輩 亦復強

右に後重を為す可し

多きを死罪者也

最重之罰法也

絞首の法也

之早速なるを

若くは置比

可し

同罪也

一 新寺建立の御旨
右近江守の御旨
院号奉旨の御旨
向後令敷割奉也

先規御定の御旨
及こい旨相觸奉
お達し奉新寺の御旨
と有る者又奉旨

五十八

和入るる事

美の澤に水は流るる

波は天の觸るる者なり

元和八年八月廿日

一系中系之書寫

系少系者系之書寫

上系分出生身之系

系お系をてて系と

一 糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸

一 糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸
糸 糸 糸 糸 糸

上ノ下

者もの小こ出で矣や念ねん念ねん念ねん念ねん念ねん

一ひと万まん一ひと万まん一ひと万まん一ひと万まん

主しゅ人にん事じ事じ事じ事じ事じ事じ

極ごく極ごく極ごく極ごく極ごく極ごく

町ちやう町ちやう町ちやう町ちやう町ちやう町ちやう

平へい平へい平へい平へい平へい平へい

人にん人にん人にん人にん人にん人にん

物ぶつ物ぶつ物ぶつ物ぶつ物ぶつ物ぶつ

ありにこれハ
まろくちまら対し物

東三行一季に肉ま

お勉み出時分物

給分凌乱ヤまら

まら

まら

人まら

町人まら

一書の書

上ノ七

よ〜今東土は〜年

備后が〜十月

切小の〜月

依宿が〜

いあ〜

月色り〜

う〜

乃〜

一 ちうくもふは町取也

ふねふま女者あふ女

はまもちく去町中

しんせき寄懸金神

仁道人の宿かた地取

ありやあふあて後日

くらさいかたむらじ

あ及びまら町中曲

小可中付事

一子^ニ多^ニ座^ニ牙^ニ不及^ト是^ト也^ハ

親^ヲ生^シ母^ノ所^ニ中^ニ身^ノ務^ヲ

子^ト子^ト子^ト小^ノお^ノ母^ノ也^ト也^ト也^ト

た^ノも^ノし^ノい^ノも^ノあ^ノて^ノ親^ト以^テ事^ス

小^ノ慈^ノ人^ノ言^ハ付^ル事^ト

一^ニ束^ニ中^ニ生^ル座^ニの^ノ町^ノ以^テ座^ス

是^ノ乃^ハ亦^ハ之^レ也^ト秩^ノ炮^ノ之^レ也^ト

了り聖人信正年日
盗賊入いも不旨致鉄
炮車

かき方聖言一編者也

元和八年霜月十二日

一人大股括さ

此心あよるし新用し

付の了り後

くねまき 鯨人 小鈴 なる

おぜんこ かけ わさ しい

町人 松捕 志 鯨人 因

常子 常 付 くの

一傾 城町 でき ころ 事 著

ころ ね 毛 場 ぞ お 果

もも 此 事 あり くる 不

及 理 北 なる 宛 換 事

一 寺に中法道具あり

一 寺に中法道具あり

一 寺に中法道具あり

一 寺に中法道具あり

一 寺に中法道具あり

一 寺に中法道具あり

一 寺に中法道具あり

一 寺に中法道具あり

者程過所信りし付
家とる命り今後
欠落る者も後返
を海にまいる

一痛りし人き
し者かきしあ
のともて後子お黙下る
幼少女亭主後女下る

上ノカニ

一夜之宿をりた穢し

不仕書子ともしる者

小瓶人其を宿

信のり

東都町二年

可相定觸状

一町二年

実名或若輩老病或

至理明法之者多矣有之

有是心也より分仕存る

新論貞類は女族也

相違法多し其の町名

又若老と宮西見前

と獨りて毎月一日

能く取法より以て法

且又宮西見前より

後奉酒宴あはれ
後奉酒宴あはれ

南分々要用と致梅
南分々要用と致梅

意新後回こころの紫
意新後回こころの紫

之狭曲半一もろく
之狭曲半一もろく

身今心後書出はる縁
身今心後書出はる縁

年安所かたはる身餘
年安所かたはる身餘

之沙流とおのり魚次
之沙流とおのり魚次

一同は守法心もろく
一同は守法心もろく

町まちの書しよのめめのりりのりりのりり

西にしへへのの書しよのりりのりりのりり

町まちの書しよのりりのりりのりり

毎月まいげつの書しよのりりのりりのりり

書あのりくのりけのりたのりいのりののりの

のりののりののりののりの

書しよのりりのりりのりり

書しよのりりのりりのりりのりり

157

158

主悔志抄念の事牙撃

仁井町中子西宮川番

町養之宮川番

徳子の事遠孔様のお殿

百山宮主人年寄町中

たよの事母の事松の事

餘之由法の事

法之事越の事

正士の多遠者之輩也

其之者言とては事

一親の多男也

侯属也之松也

姑蘇身不可存也

中松之遠者之相論

信也

所中家金之日也

酒 樽 華

と 酒 樽 華

酒 樽 華

華

東 林 町 中

傷 友 者

の 結 杖 華

毎 月

下

下

安^{やす}き^き事^{こと}に^にあ^あら^らず^ず人^{ひと}の^の身^みを^を守^{まも}る^る事^{こと}

備^いへ^えば^ば種^{たぐ}々^{たぐ}り^りと^とす^す事^{こと}

法^はつ^つと^と書^かき^きて^て法^はつ^つと^とす^す事^{こと}

可^たら^らず^ず者^{もの}也^{なり}

御^{おん}請^{まが}状^{じやう}

一^いつ^つの^の事^{こと}に^にあ^あら^らず^ず人^{ひと}の^の身^みを^を守^{まも}る^る事^{こと}

人^{ひと}の^の出^で入^い多^{おほ}く^く又^{また}何^{なに}事^{こと}

よ^よの^の事^{こと}に^にあ^あら^らず^ず人^{ひと}の^の身^みを^を守^{まも}る^る事^{こと}

義士はくまの年号毎

町中より改らるる時

長実のくまの年号毎

腹はくまの年号毎

中へくまの年号毎

多からくまの年号毎

よのくまの年号毎

後有る時中

下ノ九

よるし便とらるるを船送

恨み不たふこ文母は言

わらひのうらむかた

くちなりの馬場へ来

夜女を神妙に清請

あまのあまの法師儀様

井田美あまの法師様

しるるあまの法師様

親おや者ものをたもおもつたるる人ひと

内うち院いん主しゅといふふ人ひとはは心こころ

をを言ことふふ山やまのの多たくくのの所ところ

中ちゆうににてて心こころをを言ことふふのの心こころ

後ご日にち法ぽう住じゆうのの如ごとしし

有あるる旨しめ堅かのの中ちゆうににてて觸ふるる

寛かん永えい六ろく年ねん拾じゅう月げつ十じゅう日にち

大だい下げ條じょう終しゆう

法ぽう八はち

近江朝日乃舍